

『私たちが救われた理由』

'20/04/05(ライブ礼拝)

聖書箇所:エペソ人への手紙 2章 1-10節(新約 p.374-)

皆さん、おはようございます！…ちょうど、こちら辺りでは今、桜がキレイに咲いております。今は、新型コロナの関係で、何でも自粛自粛ムードですが、もし可能であれば、買い物ついでなどで、近くの桜をご覧になってみてください。神様は、すべてのものを御支配してくださって、常に、素晴らしいことをなしてくださっているということを、改めて、感じる事ができるかと思えます。

マタイ 6章で、イエス様はこうおっしゃっておられます、『29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださいなわけがありませんか。…』さあ、それでは、今日の礼拝も賛美をもって始めましょう！

<メッセージ>

今日は 2020/4/5、八田西 CC にとりましては、2回目のライブ配信となります。本当なら、新年度ということで、礼拝後にはCSの進級式などが計画されておりましたが、それもまた、延期となっております。早く、皆さんと一緒に礼拝を捧げられるようになって、進級式を持ちたいですね…。さて、今後しばらく、ライブでの礼拝を捧げていく！ということで、今日からは、以前にメッセージした内容で、ぜひ、Facebookに残しておきたいメッセージをしたいと思っておりますので、どうぞ、ご理解ください…。

さて、皆さんは、こんなことをお考えになったことはありませんか？「どうして、自分のような者が、聖く正しい神様によって救われたのだろうか？どうして、私のような者のために、罪の無いイエス・キリストが私の身代わりとなって、十字架にかかってくださったのだろうか？」って…。そういった疑問に対して、ある人たちはこう答えます、「それは、あなたに、それだけの価値があったからですよ！」って…。確かに、そう言われると悪い気はしません。でも、本当にそうなのでしょうか？果たして、聖書のみことばは、私たちに価値があったから、私も、あなたも救われたのですよ！ということをお教えているのでしょうか？

命題: 神様は、どうして、私たちが救ってくださったのでしょうか？

「私や皆さんが救われた理由」⇒今日は、そのことを皆さんと一緒に、エペソ 2:1-10を通して学んでいきたいと思えます。そうすることによって、皆さんが正しく神様の恵みや、また、神様の御計画というものを理解することができて、益々、大きな感謝をもって…、喜んで神様に仕える者となっていただくことを願います。どうぞ、今日の聖書箇所であるエペソ 2:1 以降をお開きください。

I・私たちに、救いが必要であったから！(1-3節)

まず最初に、今日のみことばが教えてくれていることは、私たちに「救い」が必要であった！ということです。まずは、そのことをしっかりと理解することが必要です。だってね、皆さん。救いとは、私たちが受けても受けなくても良いようなものじゃないでしょ？…救いとは、私たちにとって、絶対に必要なもの…、私たちが救われないと、大変なことになるのです！そうでしょ？…ここ、エペソ 2:1-3 では、そういったことが教えられておられるのです。まずは、エペソ 2:1-3 までをお読みいたします。

- 1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、
- 2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。
- 3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを

行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

①私たちが、かつて、自分の罪の中に死んでいた…。

実は、今日私たちが学ぼうとしているこの手紙は、「エペソの教会」という特定の教会だけでなく…、もっと多くの教会で回覧されて、多くのクリスチャンたちに読まれることを期待して書かれたものであるということが、最近の研究によって分かっています。…ですから、ここ 1 節で言われている、『あなたがた…』と言いますのは、エペソ教会のクリスチャンだけでなく、もっと多くの者たち…、恐らく、すべてのクリスチャンたちのことを指していると考えられます。そのことは、今から見ていこうとしている幾つの特徴を見ていけば、皆さんも納得して下さるようになります。

まず、ここで、この手紙を書いたパウロは、『罪過と罪…』という言葉を使っています。ここで、『罪過』と訳されている言葉(παράπτωμα)は、「踏み外して落ちること、違反、墮落、(罪過、)背教」というように訳される言葉で、どちらかと言うと、意識的に犯す罪や、行動となって表に現われ出した罪を表わし、もう1つの『罪』と訳された言葉(ἀμαρτία)の方は、「的を外す…」といったような間違いや、そういった間違った生き方の故に犯してしまったような内面的な罪や悪を指していると思われる。

そうして、その後には続きますのは、私たちが、そういった『罪過と罪との中に死んでいた者であって…』という言葉です。この『死んでいた…』という言葉は、私たちが、「肉体のいのちを持っていなかった(とか)、息をしていなかった…」というような意味ではありません。例えば、この言葉は、ルカ 15 章に書かれてある有名な「放蕩息子の例え」と呼ばれる箇所にも使われておられるのですが、そこでは、真の神の事を表している父親の事を敬いませずに…、勝手気ままに、自分の家から出て行ったわがままな弟息子のことが、『死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだ…』(ルカ 15:24)という風に表現されておられます。つまり、今日のみことばの 1 節でパウロが言わんとしていることは、「私たちが皆、かつて、自分自身が犯した数々の罪の故に、全く“無益な者”に成り下がっていた！かつては、『死んでいた』も同然であった！」ということなのです。…と言いますのも、私たち人間は皆、先程言った放蕩息子と同じように、本当の造り主である真の神様から離れて…、自分の好き勝手に生きていたからであります。

イザヤ 43:7 では、こう教えられておられます。『わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。』って…。⇒神様は、御自分の栄光のために…、その素晴らしさを現わすために…、私や皆さんのことを造ってくださったのです！しかし、どうか皆さん、考えてみてください！果たして、皆さんは、完全に聖く正しい神様の素晴らしさを現しておられるのでしょうか？⇒聖書のみことばは、それを、「できていない！」と教えています。だって、先程言いましたように、私たちは、たくさん罪と言うか…、みにくい思いや数々の過ちなどに“まみれて”しまっているからです。

②私たちが、かつて、悪魔に従って生きていた…。

それだけではありません。今日のみことばは、私たちが、かつては悪魔に従っていたということをお教えます。ここ 2 節の、『空中の権威を持つ支配者』というのがそれです。確かに、この世の中と言うか…、世界の全てのものを造られた御方は、真の造り主なる神様だけです。しかし、それと同時に、この聖書が至るところで教えてくれていることは、今現在、この世の中は、悪魔に従ってしまっている！悪魔に支配されている！ということです。

…ですから、例えば、その昔、イエス様が荒野で悪魔からの誘惑に会われた時も、悪魔は、イエス様のことを、『非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、…もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。』というようなことを言ったということが、マタイ 4:8-9 に記されておられます。また、それだけではありません。十字架にかかれる前夜、イエス様は弟子たちに、

こんなことをおっしゃられました。ヨハネ 14:30、『わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。』⇒このように、悪魔の支配は完全なものではありません。また、悪魔の支配というものは一時的で…、しかも、神様の許しの範囲内でしか起こりえないということが、旧約聖書のヨブ記などから分かります。

しかし、こういった言い方が良いかどうかは分かりませんが…、例えば、数の上で言いますと、悪魔とそれに従う軍勢どもは圧倒的多数です。それに対して、真の神様のことを信じ、それに従う者たちは、あまりにも少数です。そうですね？特に、ここ日本におきましては、クリスチャンの数は、わずか 1%にも満たない…という風に言われています。また、それだけではありません。ある時、イエス様は、『いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。』（マタイ 7:14）とおっしゃられて…、真の神様を信じて、その神様の陣営に入っていく者が数少ないということを教えてくださいました。

この聖書が教えてくれている悪魔は、誰よりも狡猾で、誰よりもずる賢い存在です。悪魔は、多くの人間たちを惑わして、そういった者たちを利用しながら、最後には、1人でも多くの者たちを、裁きの場所である「地獄」へと引きずり込もうとしているのです（ヘブル 2:16）。

残念なことに、私たち人間はすべて…、かつては、悪魔が作り出した『この世の流れ』に従っていました…。しかし、そのような生き方は、例え、私や皆さんが意識していなかったとしても、結果として、真の神ではなく、悪魔に従っていたのだと、みことばは教えます。だって、皆さん。この世の流れというものを見て下さい。益々、この世は造り主であられる神様のことを無視して…、ますます、みことばの教えに反して、神様の忌み嫌われる悪や身勝手な方向に進んで行く一方じゃないですか！

③ 私たちは、かつて、生まれながらに、神の御怒りを受けるべき存在であった…。

私たち人間は皆、造り主なる神様によって造られ、また、生かされていながら…、その神様に逆らい、実は、悪魔に従って生きておりました。確かに、そのことを今まで強く実感してこられた方はあまりいらっしゃらないと思います。しかし、実は、それこそが真の神様からのメッセージであり…、それが現実なのです。また、今日のみことばは、私たちに、非常に大切なことを教えてくれています。この3節に、『生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。』と書かれてありますように、私たちは、おのれの数々の未熟さの故や社会の悪に染まってきたから…、罪人となってしまったのではなく、私たち人間は皆、罪を持って生まれてきたが故に、生まれながらの罪人である！という現実です。赤ちゃんや幼い子どもたちがわがままを言い…、悪いことをしてしまうのは、必ずしも、親の責任ではありません。罪を持って生まれてきたが故なのです。いえ、子どもたちだけではありません。私たち大人だって、その罪の性質を正しく理解して…、その罪に対して勝利するために救われなければ…、その罪と運命を共にする他ありません…。

残念ながら、この地上の誰一人、罪を持って生まれてこない人間はおりません！救いが必要でない者もおりません！ですから、私たちを救ってくださるお方は、私たちとは全く違った方法で生まれてくる者でなくてはなりません。そのことのために、イエス様は、はるか何百年も前から預言されて…、そうして、今から約 2000 年前に処女マリヤから生まれてこられたのです。イエス・キリストだけが、私や皆さんのことを罪から救ってくださる唯一の救い主なのです。

II・神様の、偉大なる御性質のゆえに！（4-5 節）

その次に、私たちが見ていきたいことは、今日のみことばの 4-5 節に記されてあります、真の神様の偉大なる“御性質”であります。私たちは、この神様の偉大な“御性質”のゆえに救われたのです。それが、今日のメッセージの2番目のポイントです。そのことを確認していきたいと思っておりますので、どうぞ、今日のみことばの内、エペソ 2:4-5 をご覧ください。

- 4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、
- 5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——

① 神の あわれみ による（4 節）。

今お読みしました 4-5 節では、真の神様が持つておられる3つの御性質について説明されてあります。まず最初に教えられてありますのは、神様とは、『あわれみ豊か』であられる！ということです。『あわれみ』とは何でしょうか？⇒辞書を見てみると、「不憫に思うこと。慈悲。同情。」とありました。神様が、神様の御怒りを受けて当然の、私たち人間のことを可哀想に思ってくださいましたのです！聖書が教えてくれているところの、真の神様は、そのような『あわれみ』に満ちておられる御方です。だから、そのような神様から私たちに、救いの手が差し伸べられたのです。

② 神の、大きな 愛 による（4 節）。

次に教えられてありますのは、神様の愛です。しかも、ここ 4 節では、『私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに…』とあることから分かりますように、ここでは、皆さんもよくご存知の…、神様の特別な愛を表す、「アガペー」(ἀγάπη)という言葉の、名詞形と動詞形とが使われていて、そのことが非常に強調されてあることが分かります。この、「アガペー」(ἀγάπη)という言葉が表してくれている種類の愛とは、神様が私たち人間を愛してくれているような、無条件かつ、自己犠牲的な愛のことを言います。

しかし最近では、多くの教会で、この神様の愛を強調し過ぎる傾向にあります。ここで、今日のメッセージの冒頭に話したことですが、「あなたは神様から、大きな愛でもって愛されています！何と、神様は、イエス・キリストのいのちと同等の価値を、あなたに見出してくださいましたのです！」というようなことが、ささやかれている場合があります。実は、このような説明をした伝道トラクトがありました。ちょっと、その抜粋を紹介させていただきます。<…たとえあなたが有名でなくても、高い地位に就いていなくても、強くなくても、神はあなたを高価で尊い存在だと認めて、愛しておられるのです。…そしてそれを表すために、イエス・キリストをくださったのです。…(それが)私たちを愛するために神が支払った代価＝あなたの本当の価値なのです。キリスト教会に掲げられている十字架は、あなたの価値を表しています。神から離れ、自分勝手な生き方はあなたの本当の価値を見失わせましたのです。…神はイエス・キリストの十字架をあなたと同じ価値と認めてくださったのです。…あなたが、自分の本当の価値を知ったら、きっとあなたの人生は変わるでしょう。>…と、このように続いています。

皆さん、今のコメントをお聞きになって、どのようにお感じになられますか？⇒明らかに、今先程見てきた聖書の教え…、聖い神様の前に、罪ある私たち人間がどのような存在であるか？という教えとは、少し違った印象のことが語られてあるように思います。そうではないでしょうか？

実は、先程のトラクトの場合もそうなのですが、ほとんど、こういったような…、「あなたには価値があるのです！」というメッセージの場合に引用される箇所があります。どこだと思われますか？⇒そう！イザヤ 43:4 なのです！ちょっと、皆さん。どうぞ、イザヤ 43:4 をご覧ください。そこでは、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。（だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。）』という、神様の言葉が記されてあります。では、本当に、このみことばから、神様は、イエス様のいのちと同じような価値を、私やあなたに見出してくださいましたのだ！というようなことが言われているのでしょうか？

ぜひ、皆さん。このみことばが語られるまでの文脈を見るために、イザヤ 43:1-4 までをご覧ください。『1 だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、【主】はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを形造った方、【主】はこう仰せられる。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡るときも、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。3 わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしは、エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』

⇒ここで、何が教えられてありましたか？ 1 節に、『…ヤコブよ…イスラエルよ…』とあることから、明らかに、この言葉は、イスラエルの民(＝ユダヤ人)に対するメッセージであることは分かります。だから、1 節後半から、こうあるのです。『1 …わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡るときも、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。』⇒これは、神がユダヤ人たちになされた、「困難の時にも、神と共に居てくださる」という約束の実践です。実際、これ以前に、ユダヤ人たちはエジプトの奴隷であった状態から解放され…、モーセたちは紅海を渡り…、ヨシュアたちは『主の箱』をかついでヨルダン川を渡ることができました。そして、この時代よりも後の話ですが(イザヤは BC740-690、ダニエルは BC606-530)、ダニエル記 3 章には、『シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ』が『火の燃える炉』の中で助けられたという出来事がありました。

そして、その後、3 節で教えられているのは、神様こそが、イスラエルの『神』であり、『主』であり、また、『救い主』であられるという話です。つまり、イスラエルの民は、この神様によって、「贖われた」のです(イザヤ 43:1)。だから、神は、エジプトよりもイスラエルを優先してくださったのです！その後、書かれてある、『クシュとセバ』というのは、『エチオピア』のことで、少し後の、イザヤ 45:14 に、こうあります。『【主】はこう仰せられる。「エジプトの産物と、クシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らは鎖につながれて、あなたに従って来、あなたにひれ伏して、あなたに折って言う。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかになく、ほかに神々はいない。』』⇒このように、神様の御導きの内に、イスラエルが回復され…、彼らは、他の国々よりも優先されたのです。

そして…、4 節の、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』という言葉です。ここで言われている、『あなた』とは誰を指すのでしょうか？ ⇒明らかに、イスラエルの民です！ですから、『人をあなたの代わりにし…』と言うのは、「エジプトやエチオピアをイスラエルの代わりとした！」と言うことで、『国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』とは、そういった国々の民とイスラエルの民のことなのです。

ですから、ここで、みことばが教えてくれている、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。』とは、明らかに、旧約時代のイスラエルに対して言われた言葉で…、今も、神様はイスラエルという国を特別に導いておられるということが分かります。また、『あなたは高価で尊い。』という言葉も、エジプトやエチオピアと比べた上で、イスラエルに対して向けられた言葉であって、決して、どのようなものよりも…、例え、イエス様のいのちよりも…、私やあなたの方が尊いなんていうことを、この聖書箇所は教えようとはしていないというのは明白です！

ここから、自然と導き出される適用は、神様は、御自分が贖いになられたものを、より…、ねんごろに扱ってください、価値を与えてくださるということです。価値があるから救われたのではありません。神様によって救われたから、価値あるものとなったのです！イエス様よりも…、イエス様のいのちよりも…、皆さんや

私の方が、価値があるなんていう話では全然ありません！私も…、そして、皆さんも、神様によって救われたことによって…、かつては、『自分の罪と罪過の中に死んでいた者…』(エペソ 2:1)であったのが、初めて、「生きた者」となったわけで…、そこで、ようやく、神様の前に用いていただける者とされたのです！どうぞ、そういったことをご理解いただきたいと思います。

もう1ヵ所、「あなたには価値がある！だから、神は、あなたに救いを用意されたのです！」というような教えをする時に、引用される箇所があります。それは、ヨハネ 3:16 です。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』⇒ここでも、『…そのひとり子をお与えになったほどに…』と書かれてあるじゃないですか！と、ある人たちは言います。「つまり、それほど価値があるからでしょ！」という訳です。しかし、よく見てください。ここでは、神様の愛を説明する言葉として…、神様の愛の大きさを説明する言葉として、『…そのひとり子をお与えになったほどに…』とあるのです！決して、『世』⇒つまり、私や皆さんの価値のことについて話されているのではありません。

ですから、皆さん。ヨハネ 15:13 になんと書かれてあるか、ご存知ですよ。『人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。』とあるじゃないですか！文字通り、イエス様は、私たちのためにいのちを捨ててくださいました…。でも、それは、私やあなたに、それほど、大きな価値があったからですか？それとも、神様の愛がそれほど大きかったからでしょうか？このみことばは何と教えてくれているでしょう？⇒そう！神様の愛が、それほどまでに大きかったからです！

ぜひ、皆さん。もう1度、今日のみことばに戻ってください。ここでも、エペソ 2:4、『私たちが愛して下さったその大きな愛のゆえに…』とありますよね！先程の、ヨハネ 3:16 にあった、イエス様のいのちを『お与えになったほどに…』とは、私たちの価値を表すための言葉ではなく、神様の愛の大きさを表すための言葉なのです！そのように理解しないと、次の聖書の教えと、大きく矛盾することになってしまいます…。

③これこそが、神の 恵み である(5 節)。

今日のみことばの、エペソ 2:5 に何とありますか？⇒『罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—』…このように、聖書は、私たちが救われたのは、ただ、神の恵みによると教えます。そうです！もし、私や皆さんのいのちに…、あるいは、たましいに…、イエス様のいのちと同等の価値があるなら、その私たちのいのちを救うために、イエス様がいのちを犠牲にされても、それは『恵みによる…』とは言えないのではないですか！？

実は、私は、これまでに何回か、このようなメッセージを聞く機会がありました…。それが、「あなたには価値があるのです！世界中で、あなたのような存在は、あなた1人しかいない！あなたは、神の前に高価で尊いとされているのです。…」というような趣旨のメッセージでした。その話がされる場合、時々、このような例えを使って、説明されることがあります。

ここに、折り目のない…、新札の1万円札を用意します。そして、その後、きれいな1万円札をクシャクシャに折ってしまいます。でも、このお金の価値が1万円であるという事実は変わりません。…それと同じように、私たちも、罪を犯したり、病気があったり、あるいは、悩みがあったり…、いろんな問題があったり…、知恵が無いとか…、お金が無いとか…、学歴が無い…、そのように、何か人と劣っているように思ったりします。自分で勝手に、自分自身のことを、「価値が無い…」などと、思い込んでしまいます…。しかし、神の前には、あなたが、どんな状態であっても、「あなたには変わらない価値がある！」とされ、神様から愛されている、というような感じで、メッセージされるのです…。

でも、皆さん、考えてみてください？…果たして、今日のみことばが教えてくれていることは、私たちは、自分の罪や罪過のゆえに死んでしまっ…、本来の価値を失ってしまっていた！ということだったのではないのでしょうか？だから、神様は、私たちに対して怒っておられる…、つまり、神の怒りこそが、私たちに相応しかったわけでしょう？…果たして、「私たちは罪によっても価値を失っていないのだ！」というメッセージは正しいものでしょうか？

また、もう一つ…。もしも…ですよ、もしも、神様がそれに相応しい価値あるものを、それと同等のものと交換したのだら…、神様の御業って素晴らしいのでしょうか？もしも、私たちに救われるだけの価値があって、神様がそのために、イエス様を十字架にかけられたのだとしたら、果たして、それを“神の恵み”と言い得るのでしょうか？もしも…、神様が、何の犠牲も払われなかったのだら…(＝対等のものと交換した、というのはそういうことですよ？)、そこに神様の栄光が現わされていますでしょうか？⇒違いますよね！本来、価値の無いものを大きな犠牲を払って救い出してくださったから…、神様の恵みや愛は素晴らしいのです！永遠の裁きに落ちて当然の私や皆さんが、神様の大きな犠牲によって救われたから、そこに感謝があるわけなのです！違います？

だって、『恵み』とは、神様からのプレゼントなわけでしょ！エペソ 2:8 に、『あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。』とある通りです。ここで、みことばが、『自分自身から出たことではなく…』と教えてくれているように、私や皆さんが救われたのは、私たちの功績や当然の報酬などではなく、一方的な、神様からの贈り物の故なのです！

皆さん、気付いてくださいました？今、私たちが見えました2番目のポイントである、3つの理由は、すべて神様の側の理由でありましたでしょ。つまり、①神様が憐れみ深かったから、私は救われたのです。②神様が、皆さんのことを大きな愛でもって愛してくださったから、皆さんは救われたのです。③神様が、あなたに恵みを与えてくださるから、あなたは救われることができるのです！これらすべては、実は、神様の側の理由です！私や皆さんの側には、何一つ、救われるべき理由は無かったのです！

Ⅲ・あなたのことを 用いよう としてくださっているから！(6-10 節)

最後、今日のみことばの 6-10 節のみことばから確認をしていきたいことは、神は、あなたのことを、“用いよう”としてくださっている！ということです。どうぞ、エペソ 2:6-10 までをご覧ください。

6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。

7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。

8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

ここ 6 節のみことばは、神様が私たちに与えてくださった救いの目的について説明してくれています。『キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。』って…。『ともによみがえらせ…』とあるのは、今日学んだように、かつての私たちが、『自分の罪過と罪との中に死んでいた者…』(エペソ 2:1)であつたからです。ローマ書 6 章で教えられているように、救われたクリスチャンたちは、『キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、…キリストとともに葬られ…いのちにあつて新しい

歩みをする…』(ローマ 6:3-4)ことができるのです。今日のみことばの 6 節では、『ともに天の所にすわらせてくださいました。』と書かれてあつて、さも、私たちも、もう既に、天に行ったかのような表現をしているのは、そのことが間違いなく実現するからです。続く 7-8 節では『恵み』ということが強調されています。

私たちのなすべきこととは何でしょうか？7 節のみことばを使って説明をいたしますと、それは、神の恵みを明らかにすることなのです！神様が、如何に、恵みに富んだ御方であられるかということ、私たちが救われた者たちが明らかにしていくのです！「こんな罪人の私でも、神は救ってくださいました！」って…。

私や皆さんが、どれほど素晴らしい人間で…、あるいは、価値があるか、なんて、そんなことはどうでも良いし…、本当は、価値なんて無いのです！だから、この 9 節には、『行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。』と書かれてありますでしょ？しかし、ただ、罪人で、御怒りを受けるべき人間をむやみに赦したのでは、神様は聖く正しい…、義なる御方ではなくなってしまいます。だから、神は、イエス様をこの地上へと送り、私たちの罪の身代わりとしてくださったのです！

しかも、それだけではありません。10 節に、『私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』とありますように、何と、神は、私たちを新しく造り変えてくださいました…。かつては、『罪の奴隷』(ヨハネ 8:34;ローマ 6:6,16-17,20)で、罪しか行つてできなかった私や皆さんを…、神様の喜んでくださる、『良い行い』をするために…、いえ、『私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださった…』とみことばは教えます。

いかがでしょうか、皆さん？今日のメッセージは、ひょっとすると、皆さんのプライドを満たすものではなかったのかも知れませんが…。「自分には価値がある！だから、私は神様から愛された！神様だけは、私のことを価値ある者とみてくださっている！自分は評価されている！」なんて…。良いですか、皆さん。自分の本当の価値を…、本当は価値が無いと気付くからこそ…、そこに感謝が出てくるのです！

I コリント 1 章のみことばは、何と教えてくれています？『26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんさい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとつて、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。31 まさしく、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。』

⇒ここのみことばもまた、教えてくれていますように、私たちに価値があるから救われた！のではありません。…私たちが誇るようなことを、天の神様は望んではおられません！良いですか？皆さん、もしも、私たちが誇るなら、誇るべきは、主です！天の神様です！そうじゃないでしょうか？…私たちは、自分自身の栄光を現わすために造られたのでしょうか？それとも、神様の栄光を…、神様の素晴らしさを現わすために造られたのでしょうか？どっちでしょう？

どうぞ、神様からの恵みを感謝しつつ…、与えられた毎日を…、如何にして、神様にお捧げできるか、そのことを考えて、毎日を歩んでいっていただきたいと思つています。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。